

オアシスの森くらぶ

ニュースレター16号 2002.10.12発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
 発行人 永田 修二
 編集人 近藤 眞史
 編集長 五十川 幸夫

6月定例活動「野鳥のための水辺創出」

近藤 記巴子

水系に乏しい相生山緑地オアシスの森に、水辺づくりを計画。多様性に富む豊かな森にすることがねらいである。

当日は何箇所かピックアップしたうちのひとつ、見晴らしの丘から稲田口へと下る散策路から数メートル離れた斜面とした。いのちの谷へと続く斜面は「日本野鳥の会」に長年所属する古沢氏にも相談し決定した場である。

さて当日、スコップ、クワ、ツルハシ、防水シートなどを手に現地に向かう。予想図を確認し作業開始。地面を掘ると土と石とどちらが多いのかと思うほどだった。森山さんの長年鍛えた腕でスペースができる。防水シートをカットする。シートを重ねテープで押さえる。昨年のトンボ池づくりで要領を習得した野浪さん、村田さんが手際よく作業を進める。その間に女性たちは大きめの石を収集する。シート上に石・土をのせバケツリレーで水をはる。朽木などを沈め水辺に浅瀬をつくり、完成！これで暑い夏を野鳥も小動物ものりきれるぞ！

しかし7月上旬の台風の大雨に無残な状態となる。ふりかえればいくつか反省点がある。トンボ池も何度か手直ししているのだ。この水辺もやり直せばいい。近いうちにもう一度、トライ



地面を掘り始めると、すぐに石混じりの固い土の層が現れた。ツルハシでほぐしながら適度な大きさと深さまで掘り進める。

防水シートは、以前トンボ池づくりのために寄付を受けたパラシールの余りを使用。つなぎ目は水漏れしないよう、ガムテープでしっかり押さえる。



防水シートを敷いた後、周囲を石や丸太で押さえて固定。シートの浮き上がりを抑えるため、真ん中にも重りになる石を並べる。

野鳥たち待望の水辺が完成！これからも改良を重ねて、野鳥たちの憩える水辺をつくっていくぞー！



自然らしさを回復させるため周りに土をかぶせ、あとは近くの防火水槽からバケツリレーで水を運んで注ぎ入れる。

